

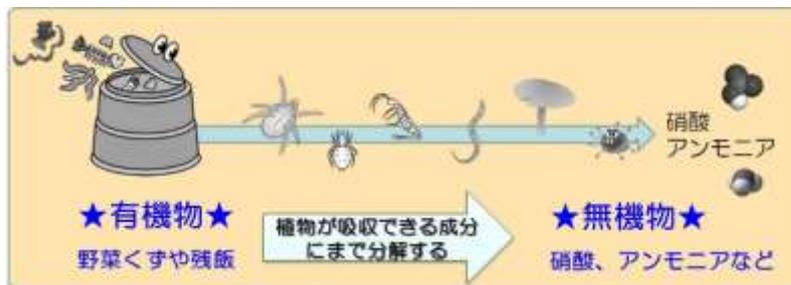
残食のコンポスト化

鹿児島大学 浅野陽樹

1. 生ごみのコンポスト化の基本原則

簡単に説明すると、

「生ごみを小動物や微生物に食べさせて、植物が根から吸収できるくらい小さな物質に分解する」こと。



2. コンポスターの準備

① プラスチック製のポット（等の容器、10～12L程度）を準備する

- 形や大きさは何でもよいので、手持ちのプランター等を用いるとよい。混合、観察、取り扱いの点で、この大きさ・形状がお勧め。
- 段ボール箱を用いる場合は、水分調整を上手にやれば分解が早くなる。雨に弱いため、底だけでも二重にするとよい。



② 新聞紙で底をふさぐ

- 基材の土がこぼれないようにするため。
- 段ボールも敷くと、より丈夫になり土がこぼれにくくなる。

③ 土を半分くらいまで入れる

- 畑や花壇の土でよい。
- 購入土は殺菌されていることが多いので、その場合は花壇などの土をひと握り加える。
- 土の代わりに、おがくずやピートモス等を使用すると、分解条件としては土よりも優れるが、2学期にこのコンポストで栽培する場合（コンポストを早く栽培に用いたい場合）は土の方が優れる。



- 残飯を投入しはじめると、次第に量が増すため、最初の土はいれすぎないこと。

④ 水分を調整する

- 手で強く握って塊ができるかできないか程度
- 残飯は水分が多いため、さらさらの土で始めてもうまくいくことが多い。



⑤ コバエ防止用に布製のフタをする

- 古着等の布で代用可。
- 混合用のスコップはコンポスターの中に入れておく（コバエがスコップに卵を産むため）。

- ・コバエの発生を完全に防止することは非常に難しいので、発生しても気にならない場所（校舎裏など）での保管，発生後の駆除で対処するとよい。

3. 生ごみの投入方法，コンポストの管理方法

① 生ごみの投入

- ・1回あたりお玉1杯分（約200g）程度
コンポスターの土量が5L程度でこのくらい。もう少し小さめのプランター（5L程度）で土量が2.5Lだと、残飯投入量はその半分で実践するとよい。
- ・週に2～3回：GW明けから1学期中の約2か月
- ・2学期にこのコンポストを用いて栽培するのであれば、生ごみの投入は1学期で終えること。



② 日常管理

- ・生ごみを入れる時にスコップでかき混ぜる。（毎日攪拌した方が良いが、週2回程度でも可）
- ・生ごみの水気は切る。水分が多くなると（土がどろっとした感じになると）、分解が遅くなり異臭が発生する。その場合、投入を一時的にやめて攪拌のみにしたり、天日干ししたりするとよい。
- ・玉ねぎの皮や卵の殻は分解されにくい。入れることに問題は無い。
- ・みそ汁などの汁物は、水分過多になるので入れない。
- ・魚やその骨は、肥料分の多い良質なコンポストになるが、水分が多いと異臭が発生しやすい。
- ・ダニ（1mm前後、ゆっくり動く）や写真のような白カビは分解者なので、発生するのは良いこと。
- ・コバエ（幼虫）も分解者であるが、不快に思う場合は害虫として、次のように駆除する。

駆除法1）土を透明ビニール袋（二重）に入れ、口を縛って1日天日干しする。太陽熱で死滅する。

駆除法2）土を新聞紙の上に広げ1日天日干しする。乾燥と熱で死滅する。

- ・夏休み中に乾燥する（土がサラサラになる）ようであれば、適宜水を足して湿らせる。

